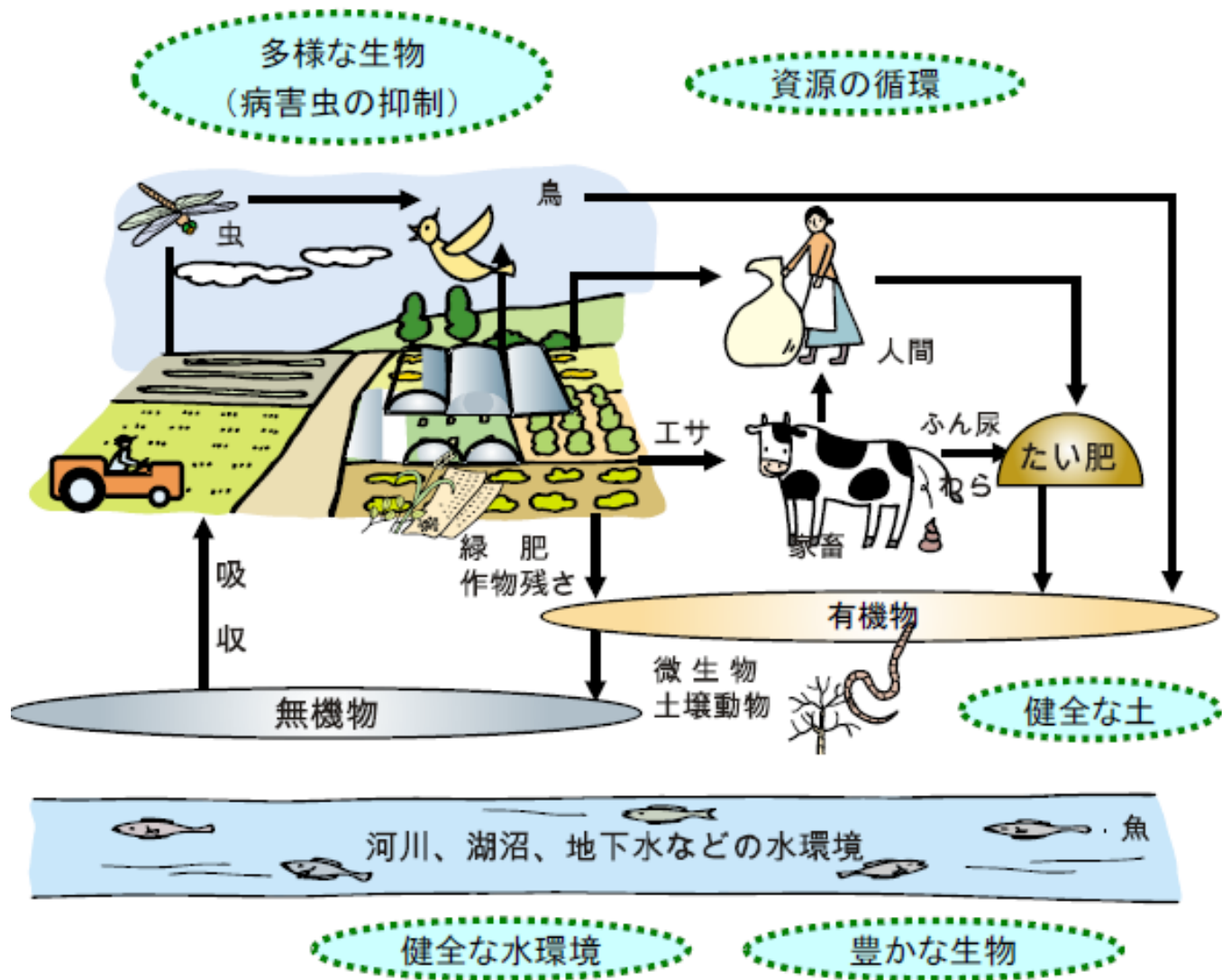


環境保全型農業とは

- 環境保全型農業とは、「農業の持つ物質循環機能を活かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくりを通じて化学肥料、農薬の使用などによる環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業」と定義されています。
- 有機農業についても、労働時間や収量などの面において課題はあるものの、化学合成農薬、化学肥料を使用しないという面では環境保全に資する農業であることから、環境保全型農業の1つの形態として位置づけられます。

農業の自然循環機能のイメージ

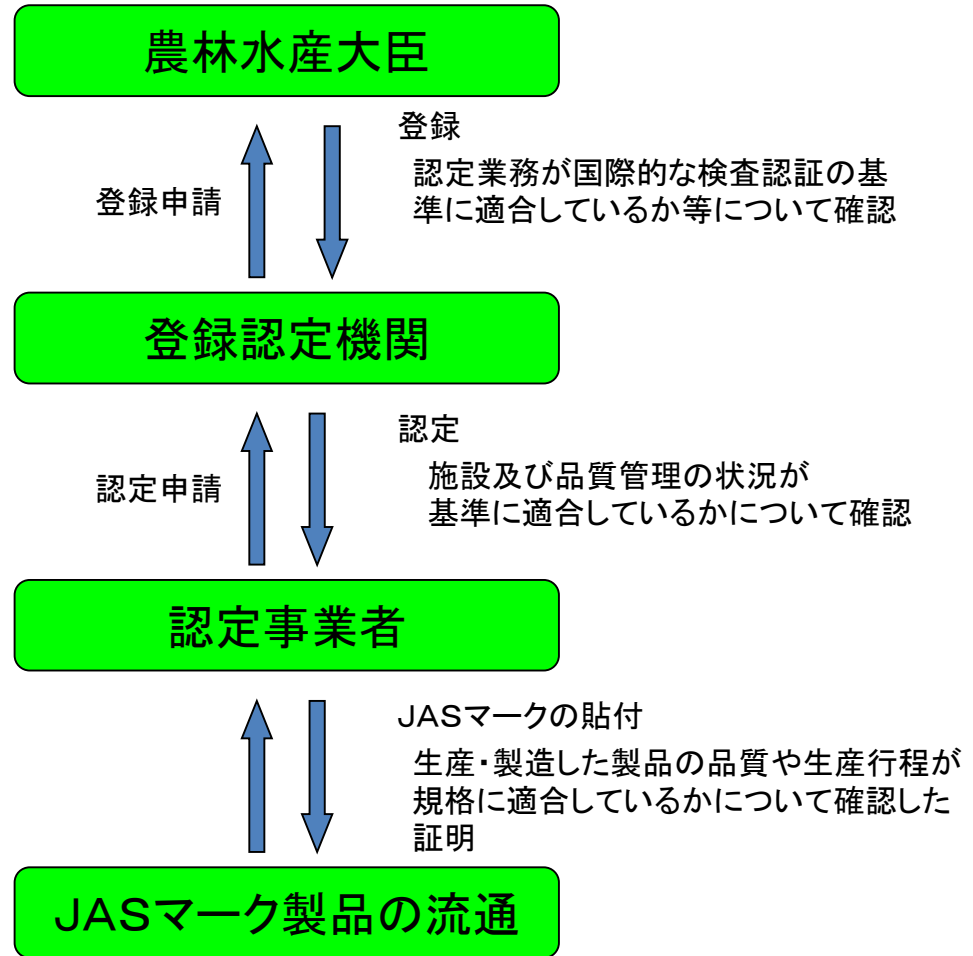


JASマーク貼付のしくみ

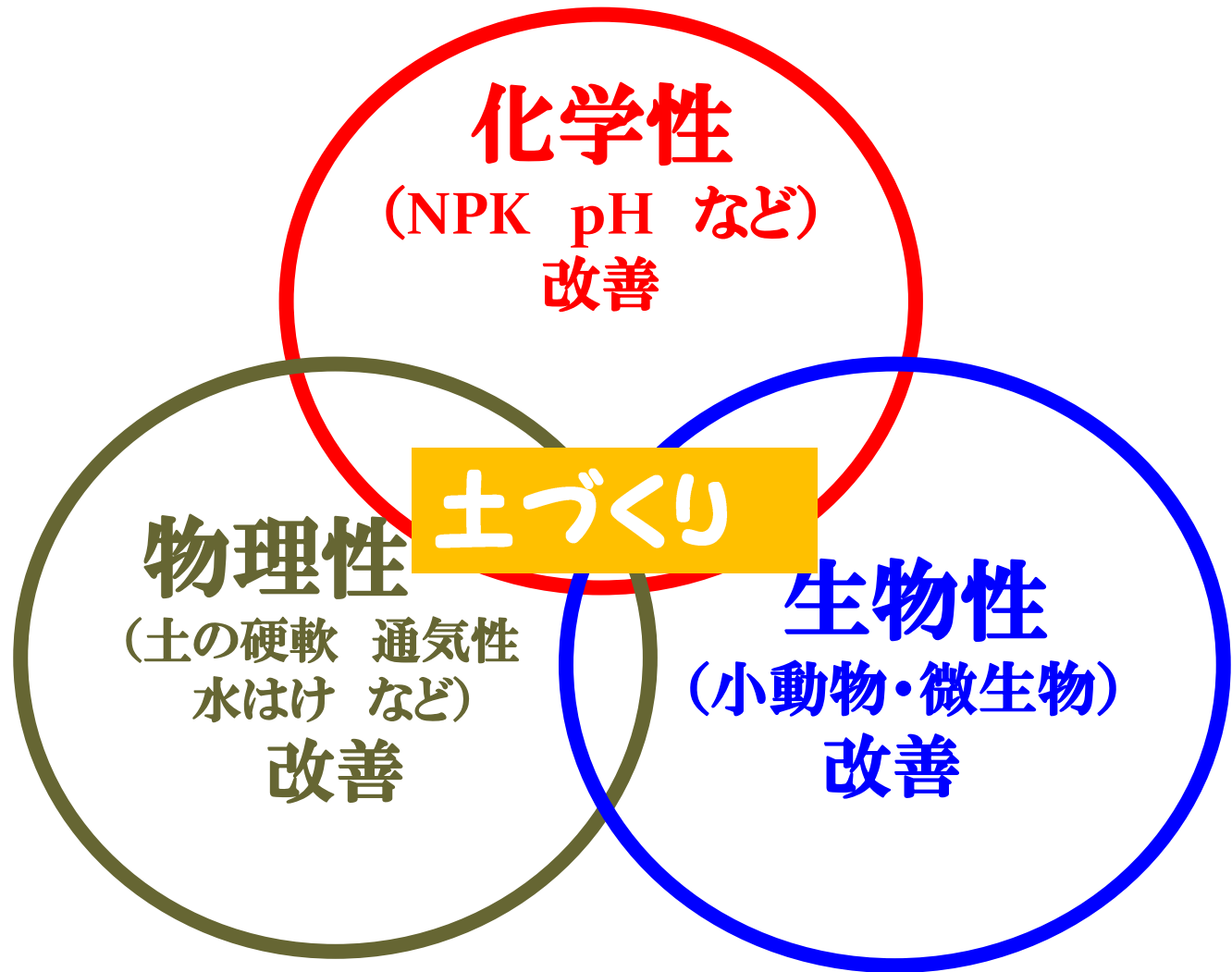
認定を受けた事業者(以下「認定事業者」という)だけがJASマークを貼付することができます。

認定事業者とは、農林水産大臣に登録された第三者機関である登録認定機関の審査を受け、施設や品質管理等の状況が国の定める基準を満たしている事業者を意味します。

製品にJASマークを貼付するには、JAS規格が制定されている品目について、その製品が該当のJAS規格に適合していると判断すること(格付)が必要です。

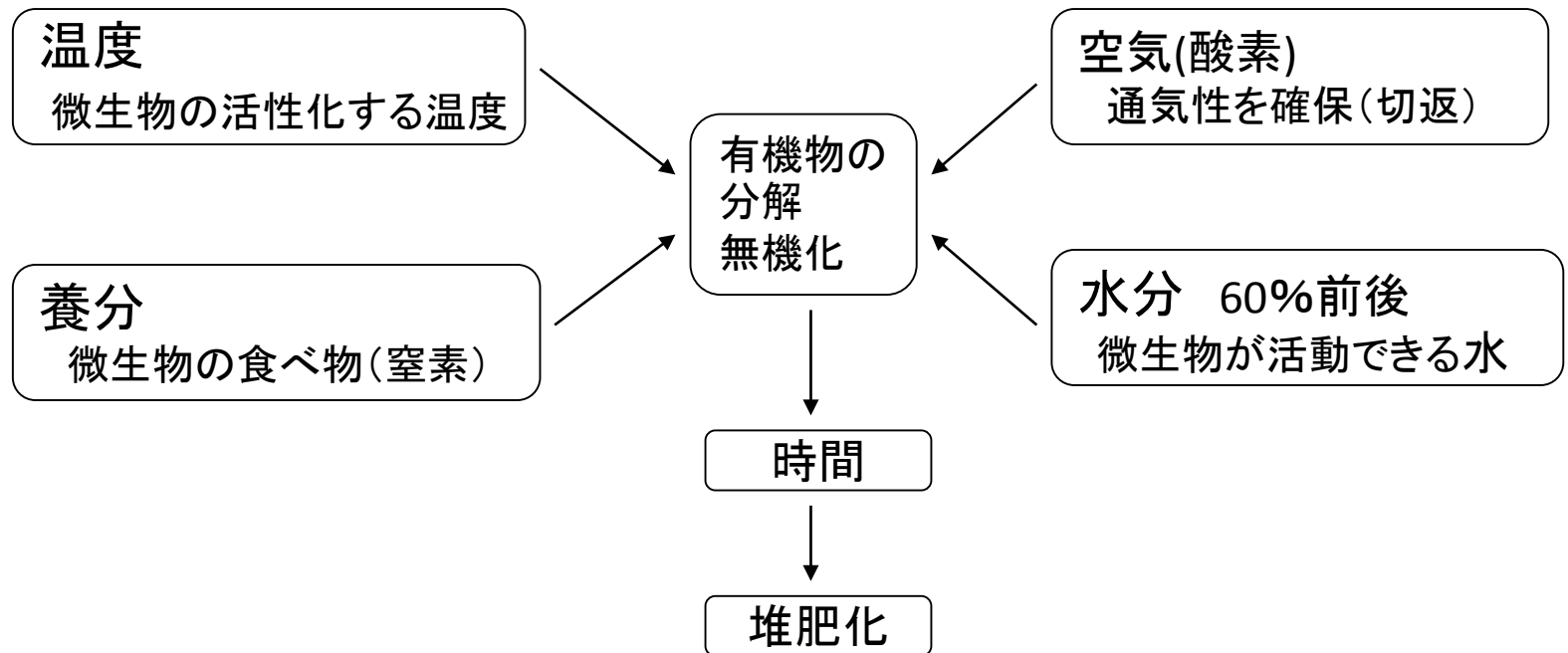


地力と土づくり



堆肥づくりの基礎知識

「水」と「温度」と「空気」と「養分」のバランスを合わせてやることで後は「時間」が経てば発酵が進む



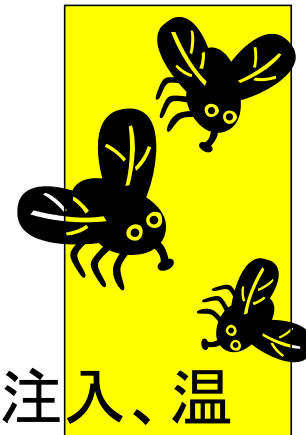
空気を入れる切り返しは、温度を下げ、乾燥を促進するため、切り返しと積み込み、水分調整がそれぞれに関係するので総合的に判断する

1 耕種的防除



1. **作期の移動** 発生しやすい時期をさける (9月のハイマダラノメイガなど)
2. **輪作・休作・混作・間作** 病害虫の種類が大きく異なる作物を植え、特定種を増やさない (キスジノミハムシ、センチュウなど移動しにくい病害虫)
3. **対抗植物・抵抗性品種** 病害虫が嫌いな植物で対抗 (センチュウにクロタラリア、トマトモザイク病の弱毒ウイルス接種苗、イネいもち病抵抗性品種、ナス青枯病抵抗性台木など)
4. **トラップ植物** 病害虫が好む作物に集めて一網打尽 (ラッカセイでキタネコブセンチュウ、マメ科植物でダイズシストセンチュウなど)
5. **施肥** 適正な施肥で病害虫に対抗 (窒素過多でコブノメイガ多発、ケイ酸肥料でニカメイチュウ少発など)
6. **耕起** 土中の病害虫を外気にさらす (バッタの卵、スクミリンゴガイなど)
7. **移植栽培** 発芽時の病害虫防止 (ダイズのハト、苗の立枯性病害など)

2 物理的防除



1. 水 土壌病害虫に湛水、微小害虫に灌水
2. 熱 太陽熱(ハウス密閉、透明シート被覆)、熱水注入、温湯種子消毒、蒸気消毒、火炎処理
3. 除去 異常部位の除去、捕殺、撲殺、刺殺、バンド誘殺、ブラッシング、粗皮削り、掃除機、捕獲器、駆除
4. 遮断 防虫・防風ネット、防風樹、べたがけ資材、ダニがえし、魚網、トタンの囲い、電気柵、袋かけ、マルチ
5. 光と色 ブラックライト、黄色蛍光灯、色彩トラップ、光反射資材、紫外線除去フィルム、目玉模様、キラキラテープ
6. 音 爆音機、花火、ディストレスコール、モグラの風車

3 生物的防除

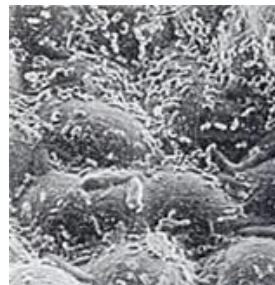
1. 在来天敵・導入天敵の保護

- 自然界は食物連鎖「食う食われるの関係」
- 圃場周辺に天敵の隠れ家、逃げ場
- 日本に侵入した病害虫に、外国から天敵を導入



2. 天敵の利用

- 天敵製剤が市販されている
- 天敵が優勢になる環境作りが必要
- 観察が欠かせない



有機農業に取り組んで



よしむら農園

目次

1. よしむら農園の紹介

2. 有機農業をはじめたきっかけ

有機野菜をなぜ選んだか。なぜ、今有機なのか

3. 栽培・販売概要

有機野菜の良さ、素晴らしいところ また、大変なところ

4. 有機農業の魅力・思い

そしてこれから

